

# 欧州 ～欧州統合に影を指す2つのイベント～

経済調査部 首席エコノミスト 田中 理(たなか おさむ)

## 戦後初の極右出身の国家元首が誕生する恐れ

12月4日に注目している。1970年代までスペインの軍政を率いたフランコ将軍の誕生日だからでもなければ、1982年に映画「E.T.」(懐かしい!)が日本で公開されたのを記念したE.T.の日だからでもない。この日に予定される欧州の2つの国の政治イベントが、欧州統合の将来に影を落とす恐れがあるためだ。

第1の注目イベントは、オーストリアで行なわれる大統領選のやり直し決選投票だ。初回投票で上位2名に残ったのは、極右「自由党」出身のホッファー候補と、「緑の党」の元党首で独立系のファン・デア・ベレン候補。長らくオーストリア政界を率いてきた中道2党の候補は決選投票にすら進めなかった。5月に行なわれた決選投票は、僅差の末、ファン・デア・ベレン候補が逆転で勝利したが、不在者投票での不正が発覚し、再投票が決まった。当初、10月にやり直し投票が行われる予定だったが、今度は不在者投票の投票用紙に不備があり、投票が先送りされるケチがついた。

同国は昨年秋に欧州で難民危機が深刻化した際、ドイツに向かう難民の主要な流入経路となった。世論調査では、難民受け入れに反対する極右候補がリードしている。ホッファー候補が勝利すれば、第二次大戦後の欧州で初の極右出身の国家元首が誕生する。同候補は過去に英国と同様に欧州連合(EU)離脱の是非を問う国民投票の実施方針を表明したことがある。

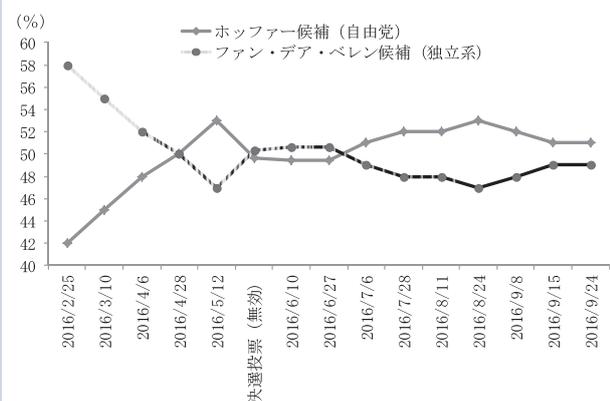
## 第2の英国が不安視されるイタリア

もう一つの注目イベントは、イタリアで行なわれる上院の立法権限を制限する国民投票だ。二院制を採る同国では、上下両院の立法権限が全く同じため、政権運営が行き詰まることが多く、改革停滞の一因と目されている。過去70年間に63の政府が乱立、5年の任期を全うした政権はなく、(日本と並んで)世界有数の短命政権の国だ。

各種の世論調査では、国民投票の行方は拮抗している。レンツィ首相は過去に投票結果が否決(改正に反対)に終われば、首相を辞任すると発言。その後に撤回したが、投票が否決されれば辞任に追い込まれる可能性がある。現在イタリアでは、首相が率いる中道左派の与党「民主党」と、反体制派の新興ポピュリズム政党「五つ星運動」の二党が国民の人気を分け合っている。上位2党が進出する決選投票では五つ星運動が有利との見方が多く、次の議会選挙で反体制派政権が誕生する恐れがある。イタリアは反EUではないが、EUの単一通貨ユーロに批判的な世論が多い。五つ星運動の幹部も過去に幾度となく、ユーロ導入の是非を問う国民投票の実施を求めてきた。

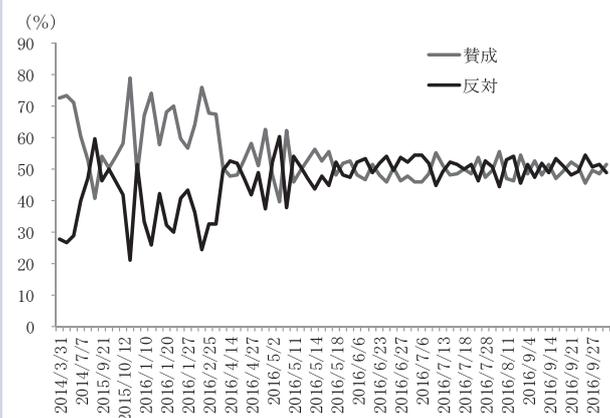
第二次大戦後に石炭・鉄鋼同盟で始まった欧州の統合プロジェクトは、1957年3月のローマ条約調印で経済共同体に脱皮した。来年3月には条約調印60年の記念式典が予定されている。直前に予定する2つの投票が、祝賀ムードに水を差さないことを願うばかりだ。

資料1 オーストリア大統領選挙(決選投票)の世論調査



(出所) Gallup資料より第一生命経済研究所が作成

資料2 イタリア国民投票(憲法改正)の世論調査



(出所) イタリア政府資料より第一生命経済研究所が作成  
(注) 態度保留者を調整後の割合